# 公立大学法人新見公立大学業務の実績に関する評価結果

令和2年8月

新見市地方独立行政法人評価委員会

# 目 次

1	評価対	才象法人	<b>の</b> 材	既要		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	
2	評価の	実施根	拠	去	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	
3	評価の	対象	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	
4	(1)	)趣旨及評価の	趣旨	f	者	•	•			•	•									•	•	•	•	•	•	•	•	•	2 2	
	(2)	評価委	員名	会	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2	
5	(1)	が法の概 評価基	準	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2 2	
	(2)	評価の	手剂	去	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2	
6	評価約	ま果・	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3	
	(1)	総合的	な記	评定		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3	
	(2)	中期計															•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4	
	I	教育研	究等	等の	質	0)	向	上	に	関	す	る	目	標		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4	
	$\Pi$	社会貢																•											5	
	${ m III}$	業務運	営	ひ改	善	及	び	効	率	化	に	関	す	る	目	標		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6	
	IV	財務内		-														•											_	
	V	自己点	検	• 評	価	及	び	当	該	状	況	に	係	る	情	報	0	提	供	に	関	す	る	目	標		•	•	7	
	VI	その他	業	务運	営	に	関	す	る	重	要	事	項		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	7	
7	公立大	:学法人	新見	見公	₩.	大	学	に	忟	す	る	勧	告	等				•		•			•	•	•				8	

### 1 評価対象法人の概要

- (1) 法 人 名 等 新見市西方1263番地2 公立大学法人新見公立大学 理事長 公文裕巳
- (2) 設立年月日 平成20年4月1日
- (3) 設立団体 新見市
- (4) 資本金の額 872,964,415円
- (5) 中期目標の期間 平成26年度から令和元(平成31)年度
- (6) 目的及び業務

### ア目的

公立大学法人新見公立大学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨にのっとり、豊かな教養と高い倫理性を養い、多面的な人間理解を深め、看護、介護及び幼児教育に関する専門の知識と技能を教授研究し、良き社会人として、市民の生活及び文化の向上並びに地域及び国際社会における保健医療、福祉の増進と幼児教育の振興に寄与する有為な人材を育成する。

また、地域との連携を深め、地域共生社会の実現を推進する。

#### イ業務

- (ア) 大学及び短期大学を設置し、これを運営すること。
- (イ) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。
- (ウ) 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動 を行うこと。
- (エ) 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。
- (オ) 地域又は社会において、法人における教育研究の成果を普及し、その活用を促進すること。
- (カ) 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

# 2 評価の実施根拠法

地方独立行政法人法(平成15年法律第118号)第78条の2

#### 3 評価の対象

公立大学法人新見公立大学の令和元(平成31)年度における業務の実績及び第2期中期目標の期間における業務の実績

# 4 評価の趣旨及び評価者

(1) 評価の趣旨

地方独立行政法人法の規定に基づき、新見市地方独立行政法人評価委員会(以下「評価委員会」という。)が、令和元(平成31)年度における業務の実績及び第2期中期目標の期間における業務の実績について、中期計画に定められた各項目の実施状況の調査及び分析の結果を踏まえ、事業の実施状況、財務状況、法人のマネジメントの観点から、業務全体について総合的な評価を行うことにより、法人が行う業務運営の改善・充実に資する。

#### (2) 評価委員会

委員名	氏 名	役 職 等
委員長	岡﨑平	株式会社自光モータース代表取締役 《企業経営に詳しい学識経験者》
委 員	田中 由貴子	元小学校長 ≪教育面に詳しい学識経験者≫
委員	中西 崇陽	公認会計士 ≪財務・監査面に詳しい学識経験者≫

(委員名順、氏名50音順)

# 5 評価方法の概要

(1) 評価基準

「公立大学法人新見公立大学の評価実施要領」に基づき評価

(2) 評価の手法

公立大学法人新見公立大学の自己評価の結果を活用する間接評価方式

#### 6 評価結果

#### (1) 総合的な評定

評価委員会は、公立大学法人新見公立大学が自己評価し提出した「公立大学法人新見公立大学の令和元(平成31)年度に係る業務の実績に関する項目別実績報告書」及び「第2期中期目標期間に係る事業報告書」を適正な評価と認め、次のとおり評定した。

公立大学法人新見公立大学の第2期中期目標は、保健医療、看護、幼児教育及び福祉の教育研究を行う新見市唯一の高等教育機関として、幅広い教養及び優れた知識を有する人間性豊かな人材を育成し地域社会に貢献するとともに、教育研究の質の向上を図り、少子高齢化、過疎化、情報化など多様に変化する中山間地域社会の要請に応えるべく、地域に開かれた特色ある大学の活動を通して、「地域とともに成長する大学」として公立大学の使命を担うことを基本的な目標としている。

平成26年度に大学院を開学、平成27年度には助産学専攻科を開設し、平成31年度には健康科学部内に健康保育学科及び地域福祉学科を開設し、既設の看護学科と併せて1学部3学科体制に移行した点、また、地域優先枠を設け、平成31年度には地元の高校から11名が入学した点、新たな校舎として地域共生推進センター棟が着実に建設されている点について大いに評価できる。

教育及び研究については、学生に対する支援体制が充実しており、その結果として各国家試験の高い合格率及び就職率を持続している点について高く評価できる。また、地域に出向いての活動は大学の特色として定着しており、有意義な取組であると評価できる。

学生の確保については、試験に合格しても入学を辞退する者の割合(辞退率)が、平成28年度には25.6%だったものが令和2年度には13.8%となった。辞退率が11.8ポイント下がったことは全学科4年制化による大学の魅力向上のほか、広報活動の効果が表れた結果であると評価できる。

学生の支援については、チューター制度導入により、細やかな生活支援及び修学支援を実施している点、また、保健管理センターの医師及びメディカルスタッフによる個別面談やカウンセリングを通じて心身の健康管理を行っている点、また、COVID19の流行に際してはいち早く対応マニュアルを作成し、感染防止行動をとった点が評価できる。

地域社会への貢献については、地域共生推進センターを開設し、地域との連携を強めるとともに、学生のボランティア活動を推進する体制を構築した点が高く評価できる。

なお、危機管理及び安全管理上、防災訓練は重要であるので、毎年定期的に実施されたい。また、今後キャリア支援センター機能を充実させ、学生の多様な分野への就職が進むことを期待する。

以上、公立大学法人新見公立大学の令和元(平成31)年度における業務の実績及び第2期中期目標の期間における業務の実績から「中期目標を達成した」と評定する。

#### (2) 中期計画の項目ごとの評定

I 教育研究等の質の向上に関する目標

#### ア評定

中期計画の進捗状況は、「計画以上の進捗がみられた」と評定する。

#### イ 理由

健康科学部1学部3学科体制の4年制大学に改組した。きめ細かな学生支援体制により、各国家試験の合格率及び就職率が高い水準を維持している点、また、地域に出向いての活動が積極的に実施されていることにより、社会貢献意識を備えた人材育成が確実に行われていると評価できる。

#### ウ 評価した項目

- 項目数
  - 6 項目
- ② 特筆すべき項目

#### 【教育・研究】

- ・令和元(平成31)年度には看護学科の定員を60人から80人に増加させるとともに、新見公立大学健康科学部に健康 保育学科及び地域福祉学科を開設し、1学部3学科体制の4年制大学とした。
- ・各国家試験の高い合格率及び就職率を維持し、令和元(平成31)年度は看護師・保健師国家試験とも在学生全員が合格 した。また、助産師国家試験、介護福祉士国家試験についても全員が合格した。
- ・看護学科、大学院看護学研究科及び助産学専攻科においては、平成28年度に倉敷成人病センターとの連携協定により開設した「くらしきサテライト」を活用した高度で専門的な修学環境が整えられた。
- ・幼児教育学科及び健康保育学科においては、「交流ひろば"にこたん"」での親子との交流を通じて、保育者に必要な資質を高める機会を提供するとともに、幼児教育学科において25年間取り組んできた「にいみこどもフェスタ」は、平成28年度から「にいみゆめのポケット」として、こどもとの関わりに焦点を当てた内容に充実させ、健康保育学科に受け継がれている。
- ・地域福祉学科においては、認知症患者捜索訓練を市民と協力して実施するなど、地域をフィールドとした活動に取り組んでいる。
- ・専門的知識の修得だけでなく、外国語教育をはじめ幅広い教養を身につけた優れた人材を養成するための教養教育を進め

ている。

・教員の研究について、学報「まんさく」に紹介枠を設けるとともに、大学のホームページに掲載し、広報に努めている。

# 【学生確保】

- ・「養護教諭一種」「幼稚園教諭一種」「特別支援学校教諭一種」の教職課程認定、「保育士養成施設」「介護福祉士養成施設」「社会福祉士養成施設」として指定を受け、大学の魅力を高めた。
- ・教員による高校訪問は、平成26年度142校であったものが、令和元(平成31)年度は431校と3倍に増加しており、学生確保に向けて精力的に取り組んでいる。
- ・大学のホームページを更新し、高校生の志望校の決定に役立つよう各学科の内容や取得できる資格、就職・進学先の情報 を掲載するなど、広報活動に努めている。
- ・平成30年度から受験生のニーズに対応したインターネット出願を開始するとともに、地域優先枠を設けて地元高校から の進学者数を増加させた。

### 【学生支援】

- ・学生に対して、チューター制度により継続的な生活支援及び学修支援を行っている。
- ・保健管理センターの医師とメディカルスタッフによる個別面談やカウンセリングを行い、学生の心身の健康支援に努めている。
- ふるさと納税制度を活用した給付型奨学金を創設するなど、経済的支援に取り組んでいる。

# Ⅱ 社会貢献に関する目標

# ア評定

中期計画の進捗状況は、「計画以上の進捗がみられた」と評定する。

# イ 理由

地域共生推進センターを核として、学生の地域行事等への積極的な参加や教員による地域貢献の取組など、地域と連携した取組を推進した。

#### ウ 評価した項目

- ① 項目数
  - 1項目
- ② 特筆すべき項目

- ・大学を核とした地方創生に取り組むための地方創生にいみカレッジ「鳴滝塾」を開催し、教育研究成果の地域への還元や 地域資源の発掘に積極的に取り組んでいる。
- ・地域共生推進センターを開設し、学生ボランティアの募集や教員の講師派遣依頼についての窓口を一本化することで、地域との連携体制の強化が図られている。
- ・公開講座の開催や、市内の看護師、保育士、幼稚園教諭を対象に知識や技術等の向上を図るための研修を実施している。
- ・市の審議会等の委員への就任をはじめ、学生の「機能別消防団員」や「ももパト隊」への加入、「サテライト・デイ」の 開催や「認知症患者捜索訓練」への参画等地域社会との連携に積極的に取り組んでいる。

#### Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

ア評定

中期計画の進捗状況は、「計画どおり進んだ」と評定する。

イ 理由

1学部3学科体制への組織改編に伴う体制の見直しや計画的な教員の採用により、運営体制の強化及び効率化が図られている。

- ウ 評価した項目
  - 項目数

2項目

- ② 特筆すべき項目
  - ・1学部3学科の4年制大学への移行にあたり必要な教員・職員を確保した。

# IV 財務内容の改善に関する目標

ア評定

中期計画の進捗状況は、「計画どおり進んだ」と評定する。

イ 理由

財務内容の改善に向け、自主財源の確保や管理的経費の節減に努めている。

- ウ 評価した項目
  - ① 項目数

3項目

#### ② 特筆すべき項目

- ・授業料について、学生の状況に応じて分納や猶予に応じるなど、未納者が生じないよう対策を講じている。
- ・デマンド監視装置による電気使用量の管理を教職員へ周知し、節約を徹底している。

#### V 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

ア 評定

中期計画の進捗状況は、「計画どおり進んだ」と評定する。

イ 理由

大学ホームページ、大学案内を活用し、新たに1学部3学科体制となった大学の知名度向上に向けた努力が認められる。

- ウ 評価した項目
  - 項目数

2項目

- ② 特筆すべき項目
  - ・大学基準協会から示された大学評価における指摘事項については、早急に改善を図っている。
  - ・平成30年度に大学のホームページを刷新し、スマートフォンに対応させるとともに、掲載内容を充実させた。また、令和元(平成31)年度には学報「まんさく」に研究紹介コーナーを設け、教員の研究内容の周知に努めるなど、積極的に情報を発信している。

# VI その他業務運営に関する重要事項

ア評定

中期計画の進捗状況は、「計画どおり進んだ」と評定する。

イ 理由

既存施設の定期的な修繕・機器更新により学生及び教員の教育研究環境を改善している。また、新校舎となる地域共生推進センター棟の整備が着実に進められている。

- ウ 評価した項目
  - ① 項目数

# 2項目

- ② 特筆すべき項目
  - ・教育研究向上・組織運営改善のための積立金については、目的達成のため、より積極的に使用されたい。

# 7 公立大学法人新見公立大学に対する勧告等

該当なし